



2020年1月31日

日本鉄道労働組合連合会

J R 連 合 自 動 車 連 絡 会 と 国 土 交 通 省 自 動 車 局 の 意 見 交 換 会

魅力あるバス産業の構築にむけて

1月30日、JR連合自動車連絡会は第1回幹事会を開催し、バス産業や各社を取り巻く情勢について情報共有を図った。そして、2020春季生活闘争にむけて方針などについて協議した。

その後、国交省自動車局に赴き、意見交換会を実施。冒頭あいさつに立った西原一英代表幹事（JR西労組西バス地本執行委員長）は、「バス産業の厳しさは長い間変わっていない。とりわけ、最近ではドライバー不足が課題となっているが、人材が集まり働き続けられる環境を創り出せていない。労使の努力だけでは解決できない課題については行政とも連携しながら取り組みを進めなければならない」と語った。

意見交換では、自動車運転者の乗務に関するルールを定める「改善基準告示」や「配置基準」など働き方の見直しに係る課題や、全産業と比較して低位に置かれた労働条件・労働環境の実態、人材確保に向けた環境整備等について、賃金実態調査の結果を示しつつ、働く者の立場から、改善すべき方向性を訴えた。



参加した各幹事から多くの意見が出され、特に、拘束時間や休憩時間、休憩時間など、実際に乗務する運転者だからこそ感じられる思いや悩みが伝えられた。また、労働基準法改正による時間外労働等の上限規制については、自動車運転者に対しては上限が異なるうえに、猶予期間が設けられることから、「一日でも早く一般則と同等にしなければ、産業全体のなかで取り残される」と懸念を示した。

自動車局からは、「働く者の安全を守ること。そして、そのための環境整備を図ることが重要である」としたうえで、「現場側も経営側にも後押しになるように考えながら、安心して働ける産業にしていきたい」と決意が語られた。

JR連合自動車連絡会はJRバス産業で働く労働者の代表として、交運労協とも連携しつつ、今後も国交省自動車局との意見交換等に取り組み、魅力あるバス産業の構築にむけ邁進していく。